

令和 8 年 1 月 14 日

## 韓国語スピーチコンテストで本学学生が奨励賞を受賞

昨年 12 月 6 日（土）に東京で行われた韓国語スピーチコンテスト「話してみよう韓国語」東京・学生／一般大会 2025 のスキット部門の本選大会に本学の人間発達文化学類 1 年生の沖島くるみさんと掛川和杏さんのペアが出場し、奨励賞を受賞しました。

昨年 12 月 6 日（土）に東京の韓国文化院ハンマダンホールで開催された「話してみよう韓国語」東京・学生／一般大会 2025（主催：駐日韓国大使館韓国文化院・専門学校神田外語学院、共催：駐日韓国文化院 世宗学堂）の一般スキット部門に本学の人間発達文化学類 1 年生の沖島くるみさんと掛川和杏さんのペアが出場しました。

一般スキット部門は、2 人 1 組で 3 分以内の韓国語のスキット（台本）を創作し、舞台上でそれを演じて発音の正確さ表現力などを競うもので、今回は“留学生生活の経験”がスキットのテーマでした。

2025 年度大会は一般スキット部門・スピーチ部門あわせて首都圏の大学生を中心に全国から 38 組 58 名が応募する中、スキット部門では沖島さん・掛川さんを含む 10 組が 11 月に行われた音声データによる予選審査を通過して本選大会にコマを進めました。本学からの出場は 6 回目となります、1 年生の本選大会出場は今回が初めてです。

現在、韓国朝鮮語基礎クラス・特設クラスを受講している沖島さんと掛川さんは、創作部分の台本作成から本選大会に向けて二人で協力し合い、練習を重ね本選大会に挑みました。本番舞台ではその実力をいかんなく発揮しました。

そして審査の結果、沖島さん・掛川さんペアは奨励賞（3 位）を受賞しました。

【スキット内容（要約）】

（共通の課題部分）

アルバイトに励む日本人留学生役 A と韓国人学生役 B が互いの近況を報告し合う。B はカフェでの 2 ヶ月間のバイトが非常に多忙であること、A はコンビニでのバイトを通じて「生きた韓国語」を学ぶ難しさと大切さを実感していると話す。そこで B は気分転換のために大学祭に行こうと提案するが、人混みが苦手な A は最初ためらう。しかし B から「韓国語の練習になる」と促され二人で大学祭に向かう。

（以下 自由創作分）

祭りで A は豊富な屋台料理を存分に楽しみ、来て良かったと B に告げる。大学祭をもっと楽しもうとした矢先、A の携帯電話にバイト先から「100 人の団体客が来る」と緊急の呼び出しが入る。結局、A は急遽出勤することになり、2 人は落胆する。

（お問い合わせ先）  
経済経営学類教授 伊藤俊介  
電話：024-548-8414  
メール：e132@ipc.fukushima-u.ac.jp